

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第7号（平成21年9月発行）

さる7月21日（火）に平成21年第2回定例会が開会され、同月31日（金）に質疑・質問が行われ、議案2件を可決して閉会しました。

今回の質疑・質問では、萩原量吉議員（三重県議会選出）、加納康樹議員（四日市市議会選出）の二人が四日市港港湾行政に関する質問を行い、管理組合執行部に答弁を求めました。

主な質問・答弁要旨

萩原量吉 議員



- 四日市港港湾計画や今後の長期構想の過大な予測、あるいは過大な見積によって、結果として過大投資になっているのではないか。

四日市港は、平成16年に、名古屋港とともに伊勢湾スーパー中枢港湾に指定されています。スーパー中枢港湾は、わが国港湾の国際競争力を強化するため、京浜港、伊勢湾及び阪神港が指定を受けており、指定を受けた各港には、国家的な見地から、大きな期待が寄せられており、現港湾計画の目標取扱貨は、このような背景のもと設定したものであります。

港湾計画に位置づけられた港湾施設の事業化にあたっては、それぞれの事業に応じた必要な調査、検討を行ったうえで、その着手時期を慎重に判断していきます。

- （この答弁に対して）国の施策そのままでは右肩上がりの予算を組んでいくことについて、本当にいいのだろうか、という疑問があり、変えてもらいたい、変えなきゃならんと指摘した。

加納康樹 議員



- 長期構想において「一開港化」「一港化」という文言が、それぞれに1回しか記述がないなど、この課題に対しての組合としての取り組み姿勢に疑問を感じる。しかし、この早期実現は重要な課題であり、あらためて現時点での「一開港化」「一港化」に向けた道筋について、年限を示していただきたい。

「一開港化」については、伊勢湾スーパー中枢港湾連携推進協議会の場において、その早期実現について、強く訴えてきています。ただ、道筋を示すことについては、関係者の合意形成が必要であり、今の時点で、その時期を示すことは困難な状況です。また、「一港化」については、長期的な視点からいけば将来のあるべき姿であり、一開港化がまだ議論の段階にある中では、一港化の議論はまだできないと思っています。

まずは、協議会で一開港化について研究・議論が進められていますので、その早期実現を今後強く訴えて、理解を得られるようにしていきたいと考えています。